

2022 新年おめでとう

2面 執行委員長ごあいさつ。3面 仲間と仲間。
4面 ポート。5面 職人の。6面 つどう会。7面 アス
ベスト。8面 建設職人、仲間のおたより、まちがい
さがし。9~12面 国保だより。



京建労機関紙 <http://www.kyokenro.or.jp>

全京都建築労働組合
〒601-8448 京都市南区
西九条豊田町3
代表 (075) 662-5321
FAX (075) 662-5331

職人の活躍を動画サイトで配信 知恵と技術で前向きに発信

ネット時代の情報ツールとしてすっかり定着した動画サイト「YouTube」で、積極的な発信をしている二人の仲間を取材しました。

能見太郎さん 44・大工・乙訓
(のうみ・たろう)

収録をする能見さん（写真左）。右はYouTubeチャンネルに登場する仲間の三谷涼さん



深田健太朗さん 36・大工・乙訓
(ふかた・けんたろう)

YouTubeの公開動画でホワイトボードを前に話す深田さん



YOUTUBEチャンネル「株式会社能見工務店」では、代表取締役の能見さんが大工技術を解説する「大工塾」や、住まいのお役立ち情報を発信する「教えて太郎さん」シリーズの他にも、ヒデキチこと番頭の高橋さんが担当する「大工のローヨチャンネル」や、左官の涼ちゃんが登場する人気動画などが盛りだくさんで、毎週月曜日と木曜日の2回を基本に発信を続けています。能見工務店は、「手刻みで建てる木組みの家」を押し出してこだわりの建築工事にとりくんできましたが、近年はある気付きから「手刻み」を一番前面に出すアピールポイントから「少し控えめに」語る能見さん。どの様な思いで発信しているのか聞きました。

A photograph of two men standing side-by-side against a background of vertical wooden panels. The man on the left is wearing a dark blue button-down shirt under a light blue denim-style vest with two chest pockets. The man on the right is wearing a white t-shirt with the text "daku-manual.com" printed on it. They appear to be in an indoor setting with wooden stairs visible in the background.



深田さんは、自身の出身地である大山崎地域の仕事を中心に「ふかた住宅」としてリフオーム会社を営んでいる乙訓支部の仲間です。会社のホームページとは別展開で運営する「大工マニアアル」は、YouTubeの動画チャンネルとブログで発信し、大工育成に役立つ大工用の教科書づくりにとりこんでいます（検索用語：「大工育成ブログ・大工マニアアル」）。16歳から大分の伯父の元で修行して23歳の若さで独立。26歳でこだわりの強い大工さんになりました。一級大工技能士等の大工技術資格に加えて、宅地建物取引士等の資格も取得して知識と技術の習得に努めてきた仲間です。

建築業界に革命を起こさなあから

深田 長岡の方だなと思って動画を見ていました。墨付けの講習動画を作つておられたのを拝見して、何をきっかけに動画配信されるようになったのかなど興味がありました。

2021年10月に自社のウェブサイトもリニューアルして、質の高い建設技術の提供はもとより、情報発信にも力を入れて、いる能見さんは、YouTubeでの動画発信のとりくみも、「その一環」と語り、「動画を貰ってくれているお客様に、従業員の顔と人となりを知っていただけるのはとても大きい」と話します。

「大工ミニュアル」を運営する深田さんは、所属する乙訓支部で、動画で見ている能見工務店が組合仲間と知り、以前より視

ですよ。しかし、大手の様に資金力もないでしょ。コマーシャルが打てる訳でもない。そんな時にY o u T u b eが身近なものになって、ここは大手とも対等にたかえるツールだと思つたんですよ。

聴者として注目して見ていた能見さんと、「一度お会いしてお話をうかがってみたい」と思っていたといいます。

能見さんはこれまで見たことのある、大工マニアアルの深田さんが京建労の同じ支部所屬の仲間だとは知らなかつたそうで、「凄い情報を公開していくなあ」と感心していたのでした。そんなお二人が、手間も暇も予算もかけて、しかも有料級とも思える様なプロ向きの動画などを含めた発信をなぜ行うのか、対談をしてもらいました。

有料級の情報をネットで無料公開するお二人に聞く



長岡京市にある能見工務店の作業場（兼営業所）にてお話をうかがった。「他にも建設関係でYouTubeやってはる人もいる」「あのチャンネルの人も近くやけど組合員さんかなあ」と談笑から、若手育成という現在の深刻な産業的課題に話が進む。





作業場で話す深田さん

上写真
ゴリー「大工塾」などでは自分の目線カメラを装着して、手元の作業とコメントを収録している。動画で見られるシーンは能見さんがこのようにして撮影を行っている

YouTubeのユーモラスなキャラクター「涼ちゃん」って、実は➡➡➡

取材に協力してくれた三谷涼さん(写真左)と一緒に。三谷さんはチャンネル「株式会社能見工務店」で「左官の涼ちゃん」として人気者。実はこれまで建築ニュースや京建労の印刷物などで度々登場している若手組員さん



2020年3月にCCUSゴールドカードを手に三谷さん

三谷涼さん(41・左官)は京建労で一番早くにCCUSのレベル判定4・ゴールドカードを取得した仲間です

動画で知つてもうえるのは人柄

(1面のつづき)
能見 他社と同じことをやついても駄目だなどの思いもあります。弟子には今までに7人も8人も来ていましたが結局残らない。

深田 辞めていってしまう

能見 弟子を育てたいと思つてもこれは無理だと。いつそ動画で配信して、見たい人が見られる様にしたらどうだろうと。動画はずっと残りますから。

それが「大工塾」で、自分の思いでやっていますが、会社としては一般向け動画を主に考えています。視聴層は99・6%が男性なので、職人が見てくれているのも多いのかと思います。

深田 僕の方も、視聴層は圧倒的に男性に偏っています。

能見 これからを担う職人層とか、若い世代に届いているなら良いなあとは思っています。

深田 辞めていってしまう

能見 弟子を育てたいと思つてもこれは無理だと。いつそ動画で配信して、見たい人が見られる様にしたらどうだろうと。動画はずっと残りますから。

それが「大工塾」で、自分の思いでやっていますが、会社としては一般向け動画を主に考えています。視聴層は99・6%が男性なので、職人が見てくれているのも多いのかと思います。

深田 僕の方も、視聴層は圧倒的に男性に偏っています。

能見 これからを担う職人層とか、若い世代に届いているなら良いなあとは思っています。

深田 これから大工になる人が減っていくなら、これは資料としても価値のあるものになると思うのです。

能見 ただ自分の技術自慢の様な動画をアップしている人が居ますが、説明もなく『俺は凄いだろ』と見せたところで、見た人は分からぬ。それでは意味がない。それでは意味がない。

深田 いやいや、僕は作業場も持つてませんから、絵で見てもらうのは苦肉の策だつたんです。色々と苦労して作っています。お話を聞いて、僕も建築業界がヤ

い。そんな中で深田さんの動画は、絵も上手、説明も上手い。なるほどなあと思われます。

深田 親方自線では、個々のやり方がある、内容を否定されるかもしれない。その時は「あそこは違うんだ」と言つて、参考にしてもらいたいです。

能見 材料のおさめ方でも自分と違うやり方も知つて置いて損はない。自分と違つたところがついて仕事になつたのは今のところ1件だけですが、お客様に協力してもううござんや、三谷さんの積極的な挑戦は、シンプルに楽しめるものや、プロでもためになるコツを多く、内容に事欠かないものとなっています。また、他にも様々な挑戦をする仲間を建築ニュース編集部まで紹介ください。

能見 動画を見ましたと連絡があつて仕事になつたのは今のこと1件だけですが、お客様に協力してもううになりましたね。ホームページではどの様にでも良く書けるけど、動画は人柄が見えます。

深田 収益化は微々たるものにしかなりませんが。能見 収益でははかれない価値がありますよ。

CCUS(建設キャリアアップシステム)への登録当时は、この制度自体がどういったものかも詳しくは分かっていなかつたと思います。しかも、自分自身の仕事先は一般のお客さんや地域の工務店さんで、大手から登録を迫られる環境でもありませんでした。

しかし、CCUSがどういうものか聞いてみると、自分の資格や仕事の実績を示せる制度として、これは自分で名刺やホームページでも書けるようなものとして、武器になると思って登録することにしました。

実際にゴールドカード取得後に、某ゼネコンから仕事の声がかかつたこともあります(丁重にお断りしましたが)。元請に言わされた人だけが登録する制度ではないですよ。これからは特に、これを職人の技量を示す物差しになると、方向性が決まって進められていますから、レベルによって日給などの待遇が、公共工事や大手に関わらず、ひとつの基準になって影響を与えると思います。

自分の経験や資格をしっかりと登録してお

くと、業者として、職人としての発言力にも、良い影響があると思います。

これから職人の役に立てれば良い凄く稼がないと育てられない



能見さんの低い声が作業場に広がる。親方の存在感

仲間の挑戦「配信動画」を見てみよう

CCUSは「武器になる」 元請に迫られずとも登録を

23年に公共工事では原則化の方針

[乙訓・三谷涼さん]

CCUS(建設キャリアアップシステム)への登録当時

は、この制度自体がどういったものかも詳しくは分かっていなかつたと思います。しかも、自分自身の仕事先は一般のお客さんや地域の工務店さんで、大手から登録を迫られる環境でもありませんでした。

しかし、CCUSがどういうものか聞いてみると、自分の資格や仕事の実績を示せる制度として、これは自分で名刺やホームページでも書けるようなものとして、武器になると思って登録することにしました。

実際にゴールドカード取得後に、某ゼネコンから仕事の声がかかつたこともあります(丁重にお断りしましたが)。元請に言わされた人だけが登録する制度ではないですよ。これからは特に、これを職人の技量を示す物差しになると、方向性が決まって進められていますから、レベルによって日給などの待遇が、公共工事や大手に関わらず、ひとつの基準になって影響を与えると思います。

自分の経験や資格をしっかりと登録してお

くと、業者として、職人としての発言力にも、良い影響があると思います。



これまでの経験が登録できるのは2024年3月までです

CCUSは建設労働者・技能者の経験を処遇改善につなげる目的で、公共工事などでのCCUSの活用は2023年度に原則化されます。CCUSに関する相談は、京建労本部・所属支部へご連絡ください。